

特 許 協 力 条 約

PCT

REC'D 21 MAY 2004

WIPO

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号 F0910PCT	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/10062	国際出願日 (日.月.年) 07.08.2003	優先日 (日.月.年) 08.08.2002
国際特許分類(IPC) Int. Cl ⁷ A61F 13/15		
出願人(氏名又は名称) 大王製紙株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で 2 ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

I ☒ 国際予備審査報告の基礎II ☐ 優先権III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成IV ☐ 発明の単一性の欠如V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明VI ☐ ある種の引用文献VII ☐ 国際出願の不備VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 02.02.2004	国際予備審査報告を作成した日 06.05.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 竹下 和志	3B 2926
電話番号 03-3581-1101 内線 3318		

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
 応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
 PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

- ☒ 明細書 第 1, 2, 4-10 ページ、
 明細書 第 _____ ページ、
 明細書 第 3 ページ、
 出願時に提出されたもの
 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 31.03.2004 付の書簡と共に提出されたもの
- ☒ 請求の範囲 第 5, 6 項、
 請求の範囲 第 _____ 項、
 請求の範囲 第 _____ 項、
 請求の範囲 第 1, 4 項、
 出願時に提出されたもの
 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 31.03.2004 付の書簡と共に提出されたもの
- ☒ 図面 第 1-10 ~~ページ~~/図、
 図面 第 _____ ~~ページ~~/図、
 図面 第 _____ ~~ページ~~/図、
 出願時に提出されたもの
 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
 出願時に提出されたもの
 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 2, 3 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1, 4-6	有
	請求の範囲		無
進歩性(IS)	請求の範囲	1, 4-6	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1, 4-6	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: JP 2002-126002 A (ユニ・チャーム株式会社) 2002.05.08

文献2: JP 2001-258935 A (花王株式会社) 2001.09.25

請求の範囲1, 4-6に係る発明は、いずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

しかしながら、このような吸収性物品は、吸収性及び装着性が共に優れ、かつ安価に入手できるという一般ユーザーが望む理想的な吸収性物品にはまだまだ及ばず、最近では、とくにシートに近い厚みを有し、軽量でコンパクトな吸収性物品の出現が強く要望されていた。

- 5 本願発明は、上記の点に鑑みてなされたもので、吸収能力を低下させることなく吸収性物品の薄型化を図り得るようにすることを目的とするものである。

発明の開示

- 10 本発明の第1の側面によれば、この吸収性物品は、パルプ繊維と高吸水性ポリマーとを含み、前記高吸水性ポリマーの含有量が55重量%以上である吸収体を備え、前記吸収体を被包する液透過性の、不織布を用いた表面シートを有し、前記表面シートにおける不織布の繊維太さ、湿潤強度および目付を、2.0デニール以下、300g/25mm以上および10g/m²以上にそれぞれ設定したものである。このような構成とすれば、吸収能力を向上させることができる。

- 15 このようにすれば、吸収体における高吸水性ポリマーの含有量が55重量%以上となると、相対的にパルプの含有量が減少することとなり、高吸水性ポリマー自体に強度保持能力がないため、吸収体の強度保持が難しくなるが、表面シートとして不織布を用いたことにより、吸収性物品の強度保持が可能となる。従って、吸収能力を低下させることなく且つ強度も低下させることなく、吸収性物品の薄型化を達成することができる。また、高吸水性ポリマーの含有量が増えたことにより、高吸水性ポリマーのこぼれによって歩留まりが悪くなるおそれがあるが、表面シートとして不織布を用いたことにより、高吸水性ポリマーのこぼれを防止できることとなり、歩留まりが改善できる。さらに、表面シートとして用いられる不織布の強度が高くなるところから、吸収性物品の強度を十分な高さに保持す
- 20
- 25 ることができる。

また、前記表面シートにおける不織布の少なくとも一部に親水処理を施しても

請 求 の 範 囲

1. (補正後) パルプ繊維と高吸水性ポリマーとを含み、前記高吸水性ポリマーの含有量が55重量%以上である吸収体を備え、前記吸収体を被包する液透過性の、
- 5 不織布を用いた表面シートを有し、前記表面シートにおける不織布の繊維太さ、湿潤強度および目付を、2.0デニール以下、300g/25mm以上および10g/m²以上にそれぞれ設定した吸収性物品。
2. (削除)
3. (削除)
- 10 4. (補正後) 前記表面シートにおける不織布の少なくとも一部に親水処理を施した請求の範囲第1項記載の吸収性物品。
5. さらに、前記前記高吸水性ポリマーが下記1)～3)の吸収性能条件を充足してなる請求の範囲第1項記載の吸収性物品。
- 1 1) 吸収速度が人工尿30ccに対し50秒以下である。
- 15 2) 吸収量が20g/cm²加圧下での人工尿に対し28cc/g以上である。
- 3) 吸湿ブロッキング率が50%以下である。
6. 前記吸収体は、前記パルプ繊維の単独層と、前記パルプ繊維と前記高吸水性ポリマーとの混合層とを有する請求の範囲第5項記載の吸収性物品。